



教会報

キリストのうちに一つになって、主の平和を広めよう



派遣としてのミサ：典礼は教会を出てから始まる テレンシオ神父

「行きましょう、主の平和のうちに (Ite, missa est)」。
この言葉は儀式の終了ではなく、私たちの使命の
始まりです。ラテン語の「Missa」は「派遣(missio)」
を意味し、ミサとは神を教会に留めておく場ではな
く、私たちがキリストを外の世界へと丁寧に届ける
ための大切な準備の場なのです。

祭壇という出発点

ミサで過越の神秘にあずかる目的は、聖体の恵み
を受け、キリストの現存を日常生活の中で力強く継
続することにあります。「行って弟子にしなさい」と
いう主の命は、聖体を受けた者にとっての必然的
な帰結です。私たちはこの世界を神の愛で満たす
ために召されています。

ミサを生きる：日常生活への派遣

「生きる聖体」となることは、日々の困難の中で自

らを差し出す「裂かれる」人生を送ることです。

●**キリストにならう (Imitatio Christi)**：利己心
を超え、足の洗浄のような謙虚な奉仕を体現する。

●**証しによる変革**：社会や職場など、最も希望を
必要とする場所に、生きているキリストの温もりを
届ける。

●**信仰と生活の統合**：ミサの後の「派遣」も典礼
の一部です。聖体を路上やあらゆる人間関係の中
に届けることで、世界を神の救いの技へと統合して
いくのです。

「行きましょう」とは、もはや自分のためではなく、
私たちのためにご自身を捧げられた主のために生き
るという招きです。儀式としてのミサは終わりました
が、キリストの現存として世界に生きる私たちの
派遣は、今、まさに始まったばかりなのです。

キリスト者の生活における典礼の教育的機能(その4)

主任司祭 B. Nowak svd

第4章 聖なる空間が果たす教育的役割

教会堂は単に典礼が執り行われる場所であるだけでなく、その形態や象徴性、美しさを通して人間に働きかける特別な教育の場でもあります。教会建築は古くから、信者を超自然的な現実へと導くように設計されてきました。聖堂を構成するあらゆる要素——入口から祭壇に至るまで——には固有の意味があり、人間とその信仰の形成において重要な役割を果たしています。

カトリック教会の聖堂空間は、基本的に信徒が典礼に参加するためのスペースである身廊と、聖職者および典礼奉仕者が典礼を執り行うための内陣とに分けられています。主要な設備としては、聖櫃、祭壇、朗読台、そして磔刑に処せられたキリスト像が掲げられた十字架が挙げられます。

ご聖体が保管されている聖櫃は、威厳のある特質と形のもので、人々の目に触れやすく、祈りの場としてふさわしい場所に置かれるべきです。そして、聖堂の中心となるのは祭壇です。祭壇はキリストを象徴するとともに、聖体祭儀が執り行われる場、すなわちイエス・キリストの完全ないけにえが御父である神にささげられる場です。祭壇の上またはその近くには十字架が置かれ、ミサ聖祭の犠牲的性格を想起させます。また、神のことばが宣言される朗読台も重要な役割を果たしています。

教会堂に入るという行為そのものにも教育的な意義があります。教会の入口は、日常生活の世界から聖なる世界への移行を象徴し、外界から中に入った人々が平安を見出し、神との出会いに備えることを助けます。このように建築そのものが、聖なるものへの敬意を人間に教え、適切な霊的態度を形成していくことを促すのです。

聖堂内部の配置もまた、信仰の形成において重要な役割を果たしています。祭壇へと続く空間は、キリストとの出会いへ向かうキリスト者の人生の旅路を象徴しています。洗礼盤、祭壇、朗読台、十字架といった要素は、典礼に用いられるものであるだけでなく、その象徴性を通してキリスト教の信仰の内容を伝え、救いの歴史における最も重要な出来事を見る者に想起させます。

聖堂内の美術もまた特別な意味を持っています。絵画、彫刻、ステンドグラスは、聖書の場面や聖人を描いた一種の「視覚的教理教育」の場を構成しています。これらを通して信徒は信仰の真理をより容易に学び、宗教的意識を深めることができます。芸術は単なる装飾ではなく、教育的かつ人格形成的な役割を担っているのです。

さらに、聖堂内の光も教育的な働きをもつ重要な要素です。ステンドグラス、建物内部の適切な色彩、そして室内照明は、集中と瞑想のための雰囲気を生み出します。キリスト教の伝統において、光は神の存在を象徴し、人々が霊的な現実に関心を開くことを助けます。

また、教会堂の美しさも決して軽視することはできません。神聖な建築と芸術の美しさは、人間の感情と想像力に訴えかけ、より深い信仰体験を育みます。芸術は、言葉では表現し尽くすことのできない内容を伝えることを可能にし、人々を神の神秘へと近づけます。

以上のような要素によって、教会堂はまさに「沈黙の教師」となります。形式、象徴、そして美を通して、聖堂は霊的な感受性を育み、信仰を深め、人々を神へと導くのです。



{ 6月7日(日)～ 地区グループ集会 }



6月7日の西東京地区・杉並南地区を皮切りに、第6回地区グループ集会が始まりました。地区グループ集会は7月5日まで、2地区ずつ全5回にわたって開催されています。

はじめに、ボクダン主任司祭より「教会堂の建築に関するカトリック教会の指針」についてのお話があり、その後、大聖堂の改装案につい

て説明が行われています。また、参加者からの質問や意見を伺う時間も設けられています。

その後、各地区に分かれて分かち合いが行われ、日頃なかなか話す機会のない方々とも交わりを深め、共同体としてのつながりを育むひとときとなっています。



{ ベトナム共同体の紹介 }



日頃から共に信仰の歩みを続けているベトナム共同体をご紹介します。

吉祥寺教会には多くのベトナム共同体の皆さんが集い、共に信仰生活を送っています。その姿は日曜日のミサだけでなく、教会を支えるさまざまな奉仕の場面でも見ることができます。聖堂の掃除では、皆が気持ちよく祈れる環境づくりに率先して協力されています。また、マリア庭園の草むしりや植栽の手入れにも取り組まれています。美しい庭の維持を支える大切な力となっています。さらに、教会行事の際には、会場設営や机・椅子の準備、片付けなどにも長時間にわたって携わり、行事の運営を支えています。

クリスマスの時期には、降誕の馬小屋の設置やイルミネーションなど、屋外の大掛かりな飾り付けにも取り組まれます。日を追うごとに飾り

が増え、少しずつクリスマスの風景が形づくられていく様子は、教会を訪れる人々の楽しみの一つとなっています。重い資材を扱う作業の中でも、和気あいあいと楽しそうに取り組まれる姿からは、お祝いの喜びを分かち合う共同体の温かな姿がうかがえます。

こうした日々の中で、私たちは共に祈り、共に働く教会共同体として歩みを重ねています。また、言葉や文化の違いを越えて一つの信仰を分かち合うことを通して、互いに豊かさを受け取りながら歩んでいます。

これからも神様の家族として、互いに支え合いながら共に歩み続けていきたいと思ひます。

{ マリア会の紹介 }



マリアさまのころ、 それはあおぞら、わたしたちをつつむひろいあおぞら

マリア会、それは吉祥寺教会の女性信徒であれば誰でもいつでも入会でき、教会内で女性信徒同士が繋がり信仰を育む「居場所」です。現在約100名の会員が7つのマリア会地区のいずれかに所属し、おもに平日に活動を行っています。

各地区から2名ずつ地区連絡員を選出し、役員と地区連絡員から成る定例会で諸事について話し合い、その内容が地区集会ですべての会員

に伝えられ、課題に取り組み、主任司祭にご指導をいただきながら活動を行っています。

地区により集会日は火曜、木曜、初金の3通りがあり、火曜と木曜の地区集会の前、そして定例会の前にも神父様にごミサを捧げていただいております、大きなお恵みとなっています。

近年の活動内容としましては、年に7回の地区集会の他、マリア月のごミサと茶話会、神父様の講話、秋の会食親睦会などの行事開催およ

び、教会主催バザー参加の為の手作り品製作奉仕、土曜ミサの朗読奉仕などを行っています。また、毎週金曜日の聖堂掃除にも多くのマリア会会員が参加しています。

秋のバザーに向けて力を注ぎ込み、手作り品を夏休み前から準備し始め、バザー直前には会員から雑貨の持ち寄り品が多数集まり、「作る、出す、売る、買う」を全員参加で楽しめます。昨年はマリア会創立50周年の節目にあたり記念誌を発刊し、過去を振り返る良い機会となりました。昭和から平成にかけて会員数が今の2倍ほどあったようですが、様々な理由により減

少が続いています。一人でも多くの女性信徒の方のご入会を切に希望し、いつもお待ちしております。

時代が移れば信徒を取り巻く環境も変わりますので、マリア会にあってもその時々合った在り方を模索していくことになります。神様に信頼し「はい」と答えられたマリア様に倣い、会員一同が「謙虚であり、互いに支え合う」ことを常に心掛け、信仰の道を共に祈りながら歩みを進めてまいります。

お知らせ

主日のミサ Sunday Mass

曜日	言語など	時間
土曜日 Saturday	日本語 (Japanese)	17:00
日曜日 Sunday	日本語 (Japanese)	9:00 10:30 17:00
第一日曜日 1st Sunday	English (英語)	14:00
第二日曜日 Chúa Nhật thứ hai	Tiếng Việt (ベトナム語)	14:00
第三日曜日 3rd Sunday	Tagalog (タガログ語)	14:00
第五日曜日 5th Sunday	International Mass (国際ミサ)	10:30

週日のミサ Weekday Mass

曜日	時間
月、火、水曜日 / Mon, Tue, Wed	6:45
木曜日 / Thu	18:30
金、土曜日 / Fri, Sat	10:30

カトリック吉祥寺教会の講座

曜日	時間	講座名	担当者	場所	対象者 / 内容
火	10:00 毎週 (月の第1火休み)	聖書の朗読と分かち合い	フリッツ神父	小ホール	信者、一般の方 / 新約聖書
	11:00 毎週 (月の第1火休み)	新約聖書入門	ボクダン神父	中ホール	信者 / マタイの福音書
	15:00 毎週 (月の第1火休み)	典礼と秘跡	テレンシオ神父	中ホール	信者 / 典礼と秘跡について
水	11:00 毎週 (月の第1水休み)	聖書入門	アナンシー助祭	中ホール	信者 / 聖書に関する教会の教え
木	10:00 毎週 (月の第1木休み)	Bible reading and sharing	Fr. Frytz	小ホール	Intended audience: faithful, general public Content: The New Testament
	11:00 毎週 (月の第1木休み)	恩恵の架け橋聖母マリア	テレンシオ神父	中ホール	信者 / 父である神は、聖母マリアを通してどのように働くかについて
	19:00 毎週 (月の第1木休み)	キリスト教基礎	ボクダン神父	中ホール	一般の方、洗礼・堅信の準備をする方、信者 / カトリック教会の基本的な教え
土	11:00 毎週 (月の第1土休み)	キリスト教基礎	ボクダン神父	中ホール	一般の方、洗礼・堅信の準備をする方、信者 / カトリック教会の基本的な教え

- 洗礼を希望している方、キリスト教に興味をお持ちの方、どうぞご参加ください。
- 受洗後のフォローアップのため、また、聖書・教理の学びを深めるために信徒の方もご参加ください。
- 受講料は必要ありません。 ● 国民の祝日にはすべての講座は休講となります。



吉祥寺教会 公式 LINE

週に一度、主任司祭より福音のメッセージと教会からのお知らせ配信されます。ぜひご登録ください。

カトリック吉祥寺教会 〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1-7-8 Tel.0422-44-0181 Fax.0422-44-0180
維持献金 振込口座 郵便振替口座番号:00120-1-6084 カトリック吉祥寺教会
事務室 受付時間 月曜日 休 / 火~金 10:00~15:00 / 土 10:00~17:00 / 日 9:00~15:00

<https://kichijoji-catholic.org/>

